

須菩提像

国宝

釈迦十大弟子の一人、須菩提の像である。奈良時代（710～794年）につくられた。麻の繊維に漆を塗り重ねた乾漆造で、内部は空洞になっている。

須菩提の像は、楽しげな若い僧の姿で描かれている。仏陀の弟子、阿難陀（アーナンダ）の標準的な描写と非常に近い。記憶力に優れていたアーナンダは、仏陀の教えを記憶し、初期の仏教の経典の作成に貢献したことで知られている。アーナンダはまた仏教の哲学である諸行無常に対しても非常に深い洞察を備えていた。仏陀の死後、アーナンダは、紀元前 400 年ごろに開かれた第 1 回の経典結集の直前に悟りを得たとされている。